
苫小牧市立病院新改革プラン自己評価

平成 2 9 年 9 月

苫小牧市立病院



【目 次】



苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表	1
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅰ	2
【医療機能等指標に係る項目】	2
【収支改善に係る項目】	3
【経費削減に係る項目】	3
【収入確保に係る項目】	4
【経営の安定化に係る項目】	4
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ	5
【医療従事者の確保・育成】	5
【収入増加（維持）への対策】	7
【経費削減（抑制）への対策】	8
【その他】	9
苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ	10
【毎年度の収支計画】	10

苫小牧市立病院新改革プラン評価基準表

新改革プランの進捗状況に対する評価は、A～Eの5段階評価で、それぞれの評価基準は次のとおりです。

評価	評価基準
A	プランの目標値を余裕をもって達成し、ある程度の附加価値が生じた。
B	プランの目標値は達成した。
C	プランの目標達成に向けて取組みはしているが、現状未達成である。
D	プランの目標達成に向けて取組めていない。
E	検討して（されて）いない。
—	評価対象外

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【医療機能等指標に係る項目】

単位：人、件

項番	項目	28年度 見込値	28年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
1	救急患者数	4,500	4,401	C	<p>救急患者数は、27年度4,703人に対して、28年度は4,401人と302人の減少となりました。</p> <p>夜間・休日の一次救急の役割の大部分を担っている「夜間・休日急病センター」の救急患者数も、27年度と比較して980人の減となっております。</p> <p>当院、王子総合病院、夜間・休日急病センターの合計患者数に対する当院の割合は、27年度15.5%に対して28年度は14.9%と減少しており、一次、二次救急のすみ分けは保たれているものと考えています。</p>
2	手術件数	2,500	2,546	A	<p>28年度は、対前年比で85件の増、計画に対しても46件増となり、目標達成となりました。また手術件数のうち麻酔科管理分は対前年比で38件の増となりました。</p> <p>手術件数の診療科別内訳は、産婦人科87件、耳鼻咽喉科45件、眼科31件、歯科口腔外科18件、脳神経外科3件の増加となり、外科51件、泌尿器科43件、整形外科5件の減少となりました。</p>
3	紹介患者数	9,550	9,299	C	<p>紹介患者数は、当院診療体制の変更により、患者受入を一部制限したことなどによる影響のため、見込値を下回る結果となりました。</p> <p>(27年度実績9,422名)</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収支改善に係る項目】

単位：％

項番	項目	28年度 見込値	28年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
4	経常収支比率	98.3	98.3	B	28年度決算においては、28年度見込値よりも経常収益及び経常費用ともに減少しましたが、経常収支で1百万円改善し、経常収支比率は見込値どおりの結果となりました。
5	医業収益比率	90.8	90.7	C	28年度決算においては、28年度見込値よりも医業収益・医業費用ともに減少しましたが、入院収益の減などにより、医業収益比率は見込値をわずかに下回りました。
6	資金不足比率	4.3	4.4	C	28年度決算においては、入院収益の減少や退職金支給額の増大等により、見込値を0.1%上回る結果となりました。

【経費削減に係る項目】

単位：％

項番	項目	28年度 見込値	28年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
7	職員給与比率	52.4	52.8	C	職員給与費の圧縮に努め取り組みをしているところですが、地域医療の安定的な供給のため、医師確保に努めた結果、0.4%の上昇となりました。
8	材料費比率	23.1	23.0	B	診療材料費削減の取組み等により見込値を0.1%下回り、目標を達成することができました。
9	後発医薬品 (ジェネリック)使用割合	73.0	83.4	A	後発医薬品使用割合は、単月で計算した場合28年8月で80%以上になり目標達成となりました。 今後も新しい医薬品が追加されていくことから、80%以上を維持していく取組みを継続していきます。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目 I

【収入確保に係る項目】

単位：％、円

項番	項目	28年度 見込値	28年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
10	病床利用率	76.0	76.3	B	27年度と比較して延入院患者数が約2,400人増加し、見込値を上回りました。 増加の要因としては、地域包括ケア病棟を活用する患者の増加により在院日数が延長したことなどによります。
11	入院単価	58,000	57,053	C	増収となるハイケアユニット入院医療管理料の適用を受けるなどの体制整備に努めた結果、入院診療単価が増加となった一方で、単価が減少する長期入院患者が一定数いたことにより増加幅は小さくなり、見込値に達しませんでした。
12	外来単価	12,300	12,643	A	外来化学療法などの診療報酬の高い治療が増えたことにより、見込値を上回りました。

【経営の安定性に係る項目】

単位：人、百万円

項番	項目	28年度 見込値	28年度 実績値	自己評価・分析	
				評価	コメント
13	医師数 (臨床研修医等も含む)	81	81	B	前年度比6名増、合計81名の医師を確保しました。
14	企業債残高	10,811	10,810	B	新改革プラン策定時には28年度の企業債借入額が確定していたため、実績値はほぼ見込値どおりになりました。 医療機器等の更新を計画的に実施し、効率的かつ効果的な設備投資を行うことにより、今後も企業債残高の縮減に取り組んでまいります。
15	一時借入金残高	1,262	1,471	C	効率的な資金繰りに努めましたが、年度末に退職金支給額が増加したこと等により、見込値より増額となりました。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【医療従事者の確保・育成】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
1	安定した医師確保	<p>大学医局を中心とした医師派遣機関との良好な関係を維持するとともに、北海道や地元医師会と連携し、今後も安定した医師確保に努めます。</p> <p>また、医師事務作業補助の内容を拡大するなど、医師の負担軽減措置を継続して取組めます。</p>	28年度～	B	<p>北海道大学や札幌医科大学などのご協力により、概ね安定的に医師を確保することができました。</p> <p>また、医師の負担軽減として、医師事務作業補助者(クラーク)を配置し、カルテへの代行入力を行うなどしています。</p> <p>28年度からは在宅指導関係の事務補助を行うなど、更なる業務拡大を図っています。</p>
2	看護師、コメディカルなど診療体制に見合う人材確保	<p>今後の診療報酬改定に伴い必要となる職種・人材については、庁内関係部署と協議の上、確保に努めます。</p>	28年度～	B	<p>学資金貸与制度の効果により、看護師を安定的に確保することができました。</p> <p>28年度実施採用試験(29年4月採用)では看護師の合格者24名のうち、20名が学資金貸与制度を利用しました。</p> <p>医療技術員については、管理栄養士2名を正規化するなど体制の強化を図りました。</p>
3	初期臨床研修医受入体制の強化	<p>2年間研修を行う基幹型の初期臨床研修医の定員は1学年6名としております。</p> <p>「研修医に選ばれる病院」であり続けることは、将来の医師確保にも繋がりますので、今後も研修医の受入体制を強化していきます。</p>	28年度～	A	<p>病院見学の際に、臨床研修医が院内を案内するなど、医学生が当院に親しみを持てる工夫をしています。</p> <p>また、親切・丁寧・迅速な事務対応も心がけております。</p> <p>28年度(29年4月採用)は、当院で2年間研修を行う「基幹型」臨床研修医について、定員6名全員を確保(フルマッチ)しました。</p> <p>加えて、1年目又は2年目のいずれかを大学で研修を行う「協力型」の研修医についても、各年次1名の受入を行っています。</p>
4	院内研修等による多職種連携の更なる推進	<p>院内研修等により「横の連携」を強化し、部門間の様々な課題を共有できる環境づくりを推進していきます。</p>	28年度～	B	<p>28年5月13日に部門別発表会を開催しました。参加人数は計81名でした。前年度の活動結果とともに、当年度の事業計画について各部門ごとに発表を行い情報を共有しました。</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【医療従事者の確保・育成】

項 番	項 目	内 容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
5	認知症ケアチームなどのチーム医療の強化	<p>従来からある「感染対策チーム」、「褥瘡（床ずれ）対策チーム」など、医師を中心とした多職種によるチーム医療を推進していきます。</p> <p>平成28年10月からは、認知症患者に対する対応力や医療の質の向上を図ることを目的とした「認知症ケアチーム」の活動を開始しています。</p>	28年度～	B	<p>28年11月より他職種にて認知症ケアチームを設置し、週1回以上のラウンドとカンファレンスを開始しました。28年11月から29年3月までの認知症ケアチームの介入実患者数は467人となりました。</p> <p>今後もチーム医療を強化し、各職種の視点から意見を出し合って、より良い医療が提供できるよう努めていきます。</p>
6	働きやすい院内環境の整備など	<p>育児休業、育児短時間勤務制度の制度周知や、院内保育所の24時間保育の継続及び入退所条件の緩和など、「早期に復職しやすく、復職後も働きやすい」環境整備を行います。</p>	28年度～	B	<p>院内保育所の24時間保育を継続したほか、産休・育児を取得中の職員であっても院内保育所を利用できるように運用を変更するなど、利用者の満足度向上に努めました。</p>
7	医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会の開催	<p>医療機関・介護施設等、多職種との情報交換会（egg）を開催し、地域における多職種協働の円滑化と連携強化を図ります。</p>	28年度～	B	<p>28年度は3回開催し、回を重ねるごとに参加施設・人数が増えました。また機関紹介やグループワークを実施し、活発な意見交換がなされ、「顔の見える関係」からさらに一歩進んだ関係へと発展していくよう取り組みました。</p> <p>当院からは医師、看護師及びMSWが参加しました。</p> <p>【実績】</p> <p>第1回 28年 6月30日 24機関 54名 第2回 28年10月26日 27機関 65名 第3回 29年 2月22日 29機関 64名 ※当院（事務局）を除く</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【収入増加（維持）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
8	7対1入院基本料などの施設基準の維持	7対1入院基本料など「病院経営の根幹となる施設基準」を維持していくために、常に情報収集を行い、迅速に対応できる体制を維持していきます。	28年度～	B	<p>28年診療報酬改定で、7対1入院基本料の要件の1つである重症度、医療・看護必要度について基準の見直しがあり、15%から25%に引き上げられました。</p> <p>重症度の高い患者さんが入室する集中治療室は一般病棟での算定であったため、ハイケアユニットでの届け出を行うと一般病棟の必要度が下がり基準をクリアできない可能性がありましたが、地域包括ケア病棟の活用などにより基準をクリアし、7対1入院基本料を維持することができました。</p>
9	地域包括ケア病棟の活用	<p>苫小牧市は、平成22年から超高齢社会となり、75歳以上の入院患者が増加して、在宅療養を必要とする患者も増えています。</p> <p>このため、地域包括ケア病棟を活用するなどして、「急性期経過後に引続き入院治療を要する状態（ポストアキュート）の患者」と、在宅や介護施設で療養中に症状が急性悪化した状態（サブアキュート）の患者」の受け入れの拡大を図っていきます。</p>	28年度～	A	<p>28年2月から届け出を行った地域包括ケア病棟は、①7対1入院基本料の維持、②ハイケアユニットの設置、③地域のニーズにあった病床機能の設置の3つの目的をもって開設しました。</p> <p>急性期治療が終了して転院や在宅の調整が必要な患者さんを転棟することで、一般病棟の重症度を上げることができ、ハイケアユニットの届け出が可能になりました。</p> <p>毎週1回転棟患者の判定会議を行いベットコントロールすることで、収益的なメリットも大きく、年間で約2,000万円の増収効果がありました。</p> <p>また、60日間の期間を活用し、しっかりと転院や在宅への調整も行うことができています。</p> <p>今後、当初の目的である3つの項目が第1ステージだとすると、在宅や介護施設で療養中に症状が急性悪化した状態（サブアキュート）の患者の受け入れを行う第2ステージの体制を構築していきます。</p>
10	ハイケアユニット（HCU）の運用	地域包括ケア病棟の運用開始により、更なる活用が可能になった「ハイケアユニット」の利用を拡大し、質の高い医療を提供します。	28年度～	B	<p>28年8月からハイケアユニットの届出を行い算定を開始しました。</p> <p>27年度延患者数は1,411件に対し、28年度は外科が110件、循環器内科は130件の増となりましたが、呼吸器内科は体制の縮小により251件の減少となり、全体で68件の微増となりました。</p> <p>入室延件数は微増ではありましたが、各診療科の協力を得て、処置や手術後の観察が必要な患者さんを入室することで、質の高い医療の提供ができました。</p>
11	かかりつけ医との連携強化	「顔の見える関係」、「信頼される関係」を構築する取組を行い、かかりつけ医との連携を強化していきます。	28年度～	B	<p>病院訪問は、28年度は23か所（27年度は12か所）実施いたしました。</p> <p>また、症例報告会はここ数年、院外からの参加者が少なかったため、28年度は症例報告会の在り方の再検討を行いました。その結果、8月開催の報告会では連携医療機関の医師に講師を依頼し、3月の報告会においては「糖尿病」にテーマを絞って多職種向けの内容にするなどしたところ、5年振りに20名を超える医療関係者の参加となりました。</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【経費削減（抑制）への対策】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
12	医療機器の効率的で効果的な更新整備	今後、移転時に購入した医療機器及び施設設備等の更新が続くことが想定され、多額の更新費用が見込まれることから、更新時期や費用対効果も検証し、急性期病院として高度な医療を提供する役割を担いながら効率的で効果的な設備投資を行っています。	28年度～	B	28年度の固定資産取得費の決算額は、対前年比で微増（約400万円増）となったものの、建設改良費全体では見込値を下回りました。 今後も大型機医療機器の更新等が予定されていることから、適正な更新計画及びメーカー等との粘り強い交渉を重ねることで、費用削減に取り組んでまいります。
13	後発医薬品（ジェネリック医薬品）の拡大	国で示しています数量シェア目標が平成29年度に70%以上、平成30年度から平成32年度までの間のなるべく早い時期に80%以上とされていることから、できるだけ早期の目標達成に向けた取組を進めていきます。	28年度～	A	後発医薬品使用割合は、単月で計算した場合28年8月で80%以上になり目標が達成されました。 今後も新しい医薬品が追加されていくことから、80%以上を維持していく取組を継続していきます。
14	材料費価格の適正化	医療材料費等コスト削減コンサルティング業者とともに、医療材料等の取引業者との交渉で病院経営にメリットとなるような有利な条件等を引出し、材料費等の削減を図ります。	28年度～	B	薬品、診療材料などの在庫管理の適正化などにより、材料費全体で見込値よりも約2,400万円下回りました。 また、コスト削減コンサルティング業者とともに、取引業者との交渉を行いました。
15	エネルギー診断等による光熱水費の削減	節水装置の取り付けやエネルギー使用量などを低減させることを目的とした省エネルギー診断業務委託を行い、効率的なエネルギー等の利用に向けた取組を実施します。	28年度～	C	29年1月から省エネルギー診断業務を委託しており、外調機の風量調整等を行うことにより光熱水費の削減に取り組んでおります。取り組みから間もないことあり、今後、削減効果が現れてくるものと推測されます。 また、29年度中にインバータの導入を行う予定であり、エネルギー使用量の削減に努めていきます。

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅱ

【その他】

項番	項目	内容	目標年次	自己評価・分析	
				評価	取組状況及びコメント
16	院内スペースの狭隘化解消	<p>入院前、入院中、退院に係る様々な相談をワンストップで受ける窓口として設置を検討している「入退院支援センター（仮称）」の開設スペースの確保や、医師数の増加に伴う医局スペースの狭あい化など、院内スペースの不足が大きな課題となっています。</p> <p>今後は院内関係部署と協議を行い、増築等も含め狭あい化の解消を図り、患者サービスの向上と業務効率の改善を図っていきます。</p>	29年度～	C	<p>入退院支援センターの開設スペースの確保や医局スペース狭隘化の解消に向けて、院内関係部署との協議を進めています。</p> <p>増築にあたっては、29年度中の実施設計の着手を視野に入れながら検討しております。</p> <p>今後スペースが不足した場合も、状況に合わせて一定程度、対応可能な作りにするなど、将来を見据えて様々な検討をしているところです。</p>
17	経営形態の現状と見直しの方向性	<p>現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を基本としていますが、経営基盤の安定化に向け、状況に応じては地方公営企業法の全部適用など最適な経営形態を検討していきます。</p>	29年度～	-	<p>当院の経営状況は、新改革プランを通して徐々に改善していく見通しであり、現時点においては現状の経営形態（地方公営企業法の一部適用）を継続する考えであります。</p> <p>今後、経営状況の見通しを失った時点で、地方公営企業法の全部適用など最適な経営形態を検討してまいります。</p>

苫小牧市立病院新改革プラン評価項目Ⅲ

【毎年度の収支計画】

(単位：百万円)

項番	収益的収支	28年度 見込値	28年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
1	病院事業収益	10,478	10,403	▲75	C	見込値より下回りました。
2	医業収益	9,212	9,144	▲68	C	見込値より下回りました。
3	入院収益	6,135	6,068	▲67	C	見込値より下回りました。
4	外来収益	2,517	2,520	3	B	ほぼ見込みどおりでした。
5	その他	560	556	▲4	C	見込値より下回りました。
6	医業外収益	1,262	1,255	▲7	C	見込値より下回りました。
7	特別利益	4	4	0	B	見込値どおりの結果となりました。
8	病院事業費用	10,682	10,604	▲78	B	見込値より下回りました。
9	医業費用	10,148	10,079	▲69	B	見込値より下回りました。
10	職員給与費	4,831	4,824	▲7	B	見込値より下回りました。
11	材料費	2,129	2,107	▲22	B	見込値より下回りました。
12	経費	2,228	2,247	19	C	見込値より上回りました。
13	その他	960	901	▲59	B	見込値より下回りました。
14	医業外費用外	510	503	▲7	B	見込値より下回りました。
15	特別損失	24	22	▲2	B	見込値より下回りました。
16	経常収支	▲184	▲183	1	B	ほぼ見込みどおりでした。
17	当年度純損益	▲204	▲201	3	B	ほぼ見込みどおりでした。
18	内部留保資金	689	703	14	—	見込値より増となりました。

項番	資本的収支	28年度 見込値	28年度 実績値	増減	自己評価・分析	
					評価	コメント
19	資本的収入	767	776	9	B	見込値より上回りました。
20	企業債	298	296	▲2	B	ほぼ見込みどおりでした。
21	他会計負担金	454	454	0	B	見込値どおりの結果となりました。
22	その他	15	26	11	B	見込値より上回りました。
23	資本的支出	1,148	1,143	▲5	B	見込値より下回りました。
24	建設改良費	344	340	▲4	B	見込値より下回りました。
25	企業債償還金	768	768	0	B	見込値どおりの結果となりました。
26	その他	36	35	▲1	B	ほぼ見込みどおりでした。
27	資本的収支	▲381	▲367	14	B	見込値より収支マイナスが減となりました。

28	その他資金変動額	▲211	▲250	▲39	—	見込値より上回りました。
29	単年度資金収支	▲107	▲115	▲8	C	見込値より収支マイナスが増となりました。
30	累積資金収支	▲1,573	▲1,581	▲8	C	見込値より収支マイナスが増となりました。

31	資金不足算入対象外 流動負債	1,174	1,172	▲2	—	ほぼ見込どおりでした。
32	資金不足額	399	409	10	C	見込値より不足額が増となりました。
33	資金不足比率	4.3	4.4	0.1	C	見込値より不足比率が増となりました。